

# 栄養やまぐち

## 栄養士を“見える化”しよう!



山口大学医学部地域医療推進学講座 教授 福田 吉治

この数年、栄養士（管理栄養士も含む）の方と一緒に仕事をさせていただく機会が増えました。数年前から全国の栄養関係の研究者と共同研究をしており、県内では昨年度から美祢市で高齢者の食に関する調査を行っています。また、特定健診・保健指導の研修会などを通じて、県内の多くの栄養士の方々と知り合いになり、栄養士会の研修会にも呼んでいただいたりしています。一般診療では、患者さんの栄養管理について相談を受ける機会も増えていきます（的確にお答えはできていませんが…）。

一緒にお仕事をさせていただいて改めて気づいたのは、栄養士の活動範囲の広さとその重要性です。地域、医療機関、学校などで、健康づくり、疾病管理、給食など、非常に幅広い分野で皆さんが活躍され、さらに、食育、特定保健指導、NSTなど、専門知識を生かすことができる新しい仕事も増えています。また、「社員食堂」や「カリスマ栄養士」などとしてメディアにも取り上げられ、栄養士がこれまで以上に注目されています。

これまで、栄養士の仕事は、医療関係者にも一般にもそれほど“見える”存在でなかったのかもしれませんが、今こそ、栄養士を“見える化”する大きなチャンスです。そこで、以下の4つの「見える化」を提案したいと思います。

### 1. 自分の仕事を見える化しよう

第1の見える化は、自分の仕事を自分の中で見える化することです。栄養士に限らず、日々の仕事に追われ、その目的や組織の中での位置づけがあいまいになってしまうことはよくあります。何のための仕事をしているのかを時々考えたり、話し合ったりすることは、日々の仕事のモチベーションアップにつながるでしょう。

### 2. 仕事の成果を見える化しよう

次は、自分の仕事を評価してみることです。仕事の成果を何らかの形でまとめてみましょう。事業報告から始め、できる範囲で分析を試み、まとめてみましょう。その結果を発表することで、いろんな知識を得たり、たくさんのアドバイスをもらったり、また、業務の改善につなげることができるでしょう。特に学会での発表は、仕事の成果をまとめるよい機会です。

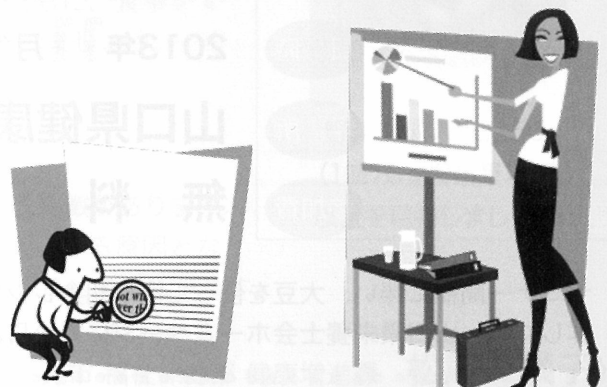
### 3. 自分を見える化しよう

さらに、職場や地域の中で自分自身をPRしてみましょう。職場や地域で行われるセミナーや研修会、もしくは、ちょっとしたミーティングで話をしたり、積極的に発言したりすることで、職場の中での自分の存在を見える化することができます。医学、看護、福祉等の教育の中で栄養学を学ぶ機会は限定されているため、栄養学の知識は、他職種にとって「目からうろこ」であることが多いものです。組織の中で存在と必要性を認められることは、チームとしてよりよいケアの提供につながるはずです。

### 4. 栄養士を見える化しよう

最後は大きな話になりますが、栄養士全体の地位を保健医療福祉あるいは社会の中で高めていくことです。疾病予防や疾病管理、さらに、これからの高齢社会の中で、栄養はますます重要になっていきます。これまでの3つの見える化を通じて、栄養士の存在と必要性を積極的にPRしてください。

4つの見える化のために大切なのは、さまざまな機会を見つけて、発表・プレゼンをすることかもしれません。職場での研修会、地域や学校での健康教育、学会などに積極的に参加することをお勧めします。また、栄養士会は、生涯教育制度が大変よく整っていますので、これらの機会を通じて「見える化」のための知識や技術をたくさん身に付けてほしいと思っています。私もできるだけのサポートをしていきたいと思っています。よりよいケアを目指して、一緒にがんばりましょう!



# 平成25年度 通常総会報告



去る5月18日(土)平成25年度通常総会が開催されました。

平成25年度の基本方針に沿って打ち出された事業計画案において、すべての議案が承認されました。

また、本年度は永年模範会員として8名の方が表彰を受けられました。

尚、平成25年度の総会議事は以下のとおりです。

- ・開催場所 山口市吉敷下東3丁目1番1号  
山口県総合保健会館
- ・開催日 平成25年5月18日(土)
- ・総会員数 904人
- ・出席会員数 567人
  - (内訳) 本人出席 79人
  - 書面評決者 357人
  - 委任状出席者 131人

- ・議長選出 満場一致をもって  
議長 下関支部 丸山 寿子  
が選出されました
- ・書記・議事録署名人選出 満場一致をもって  
書記 周南支部 植田 京子  
議事録署名人 周南支部 青木 幸子  
宇部支部 小林はな美  
が選出されました
- ・定数足の件  
議長挨拶の後、第19条の規定に基づき定数足を満たしたので、総会成立宣言が行われました。その後、議案の審議に入りました。
- ・第1号議案 平成24年度事業報告
- ・第2号議案 平成24年度決算報告及び監査報告
- ・第3号議案 平成25年度事業計画及び予算報告



## 平成25年度公開講座のお知らせ

### ソイリューションセミナー

# 大豆は世界を救う

WHOの循環器研究において世界25か国61地域を20余年を費やし調査された家森幸男先生の講演と今日の食生活習慣の課題でもある「早ね、早起き、朝ごはん」の実践に向けて、朝食に大豆のレシピを紹介するセミナーを開催します。

日時 2013年11月9日(土) 13:00～

場所 山口県健康づくりセンター

参加費 無 料

セミナー開催に伴い、大豆を使った簡単朝食レシピを募集しています。  
詳しくは、山口県栄養士会ホームページにて後日お知らせします。



## 平成25年度 永年模範会員表彰

喜びの声

## 「地域活動20年」



地域活動 奥 貞子

永年模範会員の表彰をしてくださりありがとうございます。

40年近く前、結婚と同時に退職し、栄養士会も退会しました。

家事や育児のリズムができて、そろそろ何か始めたいと通信教育を受けたり、本を読んだりしました。が、独りよがりになるのではという不安があり、もっと勉強したいと思うようになりました。

その頃、栄養士会への入会の機会を得ました。

生涯学習などの研修会では新しい情報に刺激を受け、講師の方の丁寧な説明で今まで理解できなかったことが分かるようになって、出席するのが楽しくでした。

ちょうど地域活動の仕事が増えていました。乳児

から高齢者が対象で、幅広い知識が必要とされ、研修会等で学んだことが仕事にもいかせ、意欲的に取り組むことができました。

また、たくさんの人との関わり方にも気を使うことが多かったのですが、先輩方のお話を伺ったり、思いを共有できる仲間と意見を交換したり、若い方のエネルギーをいただいたことで、20年仕事を続けられたのだと思います。

今は仕事が減りましたが、いつ相談されても答えられるようもう少し頑張ってみるつもりです。

最後になりましたが、いつもお世話してくださる委員さんや事務局の方々、本当にありがとうございます。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。



## 「二十年間を振り返って」

「いただきます。」「ごちそうさまでした。」子どもたちの元気な声が給食室に響きます。

料理好きの母の影響で、食べるのが好きになり、食べる楽しさを伝えるためにこの道を選びました。

しかし、初めて勤務したのは、「学校給食センター」、一日に二千食以上の給食を作る大きな施設でした。そこは、学生時代に実習で経験した単独校とは全く違う設備や、大量に届く野菜などに驚きを感じました。

私が想像した仕事と違うこの環境、子どもたちに食べる楽しさを伝えられないもどかしさ、戸惑いと不安の日々を過ごす中、所長のアドバイス、調理員さんのパワーや先輩栄養士のみなさんからいただいたお知恵により、給食を作ることの大切さを学び、食べることの楽しさを再発見させてくれる場所となりました。

## 山口市立さくら小学校 主任栄養士 松村 まどか

余談ですが、当時の先輩栄養士さんが、一人暮らしだった私のいろんな相談に乗ってくださり、スポーツの世界に誘って下さいました。このことが、栄養士としての今を形作っているのかもしれませんが、メンターとして尊敬する先輩の一人です。

現在の職場は、子どもたちと一緒に過ごせる環境にあります。給食を通して、子どもたちに食べる楽しさをめいっぱい伝え、子どもたちの笑顔に支えられて頑張っています。

そして今、栄養士生活二十一年目を迎えるにあたり、後輩のメンターとなれるような栄養士を目指したいと、新たな思いを胸に仕事をしていきます。今後とも、みなさまのお力添え、ご指導をよろしくお願い致します。

職域	地域	氏名	所属先	職域	地域	氏名	所属先
学校健康教育	柳井	川本 裕子	周防大島町立大島中学校	学校健康教育	山口	松村 まどか	山口市立さくら小学校
地域活動	周南	奥 貞子	地域活動	学校健康教育	宇部	鼓 美紀	山口県立宇部総合支援学校
福祉	周南	近光 紀子	周南市介護老人保健施設ゆめ風車	学校健康教育	宇部	中野 光恵	山陽小野田市立高千帆中学校
学校健康教育	山口	松崎 裕子	山口市立大内中学校	医療	下関	中村 芳乃	医療法人豊愛会豊北病院

以上8名の方々が表彰されました。おめでとうございます。

## 職域専門部会より

## 病院栄養士業務におけるこれからの展開

医療専門部会

部会長 有富 早苗

近年、病院栄養士を取り巻く環境が著しく変化してきました。以前の栄養管理は特別治療食の必要性や必要栄養量などの管理と食事指導が主な業務でした。ところが、平成18年度の医療法改訂に伴い栄養管理計画書作成が業務に加わりました。この改訂により、個々の患者さんの栄養ケアを実施するに際して、個別に栄養状態や関連要因、食事摂取量等を把握し、栄養ケア計画を作成しています。そして、一定期間後に栄養状態、本人の意欲などを評価するために病棟での活動が増加してきました。更に、栄養サポートチーム(NST)を始めとし、摂食・嚥下、褥瘡、緩和ケア、糖尿病透析予防、呼吸器ケアなど様々なチーム医療の一員として、病棟での栄養管理業務も増加しています。

現在、日本栄養士会を始めとする各団体や学会から、管理栄養士の病棟活動加算及び摂食嚥下食加算に向けての要望が始まり、今以上に病棟での活動が期待されています。そうなる私たち管理栄養士・栄養士が理想とする「患者さんに寄り添った栄養管理」が可能となる一方で、

責任も重くなってきます。

現在、医師や看護師をはじめ様々な職種の方が「栄養管理」を行おうと発言している中で、食品と食事を含めた全体像を把握した栄養管理ができるのは、私たち管理栄養士・栄養士において他にはありません。今後も自信を持って仕事を行うためには、山口県栄養士会の一員として活動することが私たち管理栄養士・栄養士の更なる発展につながります。

また、管理栄養士・栄養士が抱える問題と課題の解決のために、日本栄養士会が行っている政策課題事業の内容を把握し、それを根幹に据えた日本栄養士会や山口県栄養士会が開催する研修会に積極的に参加しましょう。

私たちは、日本栄養士会に入会すると同時に高額な損害賠償保険制度に加入できています。これは安心して仕事ができる保証へ繋がり、大きな後ろ盾になっています。これからは、会員一人一人が、幅広い専門知識と技術を習得し、チーム医療の一員として貢献できるよう、継続的な自己研鑽をしていきましょう。

日本栄養士会研究教育事業部中国・四国ブロック  
研修会開催を振り返って

研究教育専門部会

部会長 米田 壽子

昨年(H24年)の8月30~31日の2日間、研究教育事業部中国・四国ブロック研修会が、海峡メッセ下関と唐戸市場で開催されました。研修内容は基調講演・シンポジウム・教育講演・調理実演と実習でした。各研修内容について、参加者の8割以上から「良かった」と評価され安堵しました。これも所属会員全員の協力による賜物で、準備から開催まで無事に終了することが出来た事に、深く感謝いたします。

研修のシンポジウムは、特に印象に残る内容だったので一部を紹介します。管理栄養士・栄養士を採用する側(各機関・施設の長)から見た、「今、管理栄養士・栄養士に望む事」と題して、各職種をとおした提言を頂きました。

学校栄養職員・栄養教諭は「健やかな体の育成」に関わる仕事であるが、同時に「教育者としての使命感」「幼児・学童・生徒に対する教育的愛情」「人間の成長・発達についての深い理解」が望まれるとの事でした。福祉施設では、「入所者へ良い食事サービスを提供する」ことであるが、「地域の介護予防の栄養相談や地域福祉の推進役としての活躍」を望むとの事でした。療養病床の病院は高齢者が多く、「高齢者の特徴・その患者様の価値観や様々な背景についての深い理解」を望むとの事でした。「ケアする側の価値観を押し付けない事である。失

われようとしている日本の習慣・歌・自然など文化を理解しなければ、医療人として真のケアは出来ない」との言葉に、考えさせられることが多々ありました。

専門職としての仕事の向上にとどまらず、その職種の周辺領域の知識・理解、さらに豊かな人間性・倫理観などを備えて活躍することが期待されていると感じました。

提言を頂いた事を具現化する取り組みは、管理栄養士・栄養士養成機関でも少しずつ始まっています。管理栄養士教育の到達度を把握する専門的実践能力(コンピテンシー)の概念を導入した教育や、生命の尊厳、生命倫理観、職業倫理等の講義も始まりました。

2~4年の養成期間中の様々な教育場面をとらえ、信頼される専門職の管理栄養士・栄養士を育てるように、日々試行錯誤しながら力を尽くしています。

今後とも現職の先輩方には、管理栄養士・栄養士の教育養成について、ご協力下さいますようお願い致します。





## 特別寄稿

# 「たくましく生き抜く力をつけるために」 ～『防災教育』と食のかかわり～

柳井市立大島中学校（前：小田小学校）

栄養教諭 平原 みゆき

小田小学校は、将来発生が予想される南海・東南海地震に備えて、河口に位置している地形を考慮しながら、全学年で防災教育に取り組んでいる。そこで、食育目標の「ふるさとを愛し、たくましく生き抜く力」と関連させ、食を通して防災教育へかかわる取組を行った。

## 1 親子ふれあい料理教室「食べ力をつけよう！」

食で生き抜く力をつけるために「食べ力をつけよう」と題して親子料理教室を実施した。



災害により、冷蔵庫が使えないという条件の中、限られた食材（常温保存食と

旬の野菜）を使ってメニューを考えた。各班、6年生の班長を中心に、アイデアを出し合いながら料理を決めていった。保護者には、できるだけ口を出さずに、分量などのアドバイスをさせていただく程度にした。

「他の班のことも考えて、材料を使おう」という、思いやりの心をもって計画をたてたおかげで、遅くなった班も食材がなくなるという心配もなく、食材を各班でじょうずに分け合って、料理に使っていった。

各班とも、とてもたくさんアイデアあふれる料理が出来上がった。料理はトレーに盛りつけ、他の班の良いところを見つけながら、バイキング方式にして全ての班の料理が食べられるようにした。

児童からは、「とてもうまくできたのでよかった！」

「カレースープを作ったらよかったかな」という感想もあり、まだまだ、アイデアはあふれ出そうだ。

## 2 料理・手芸クラブ「災害時の食事づくり」

防災教育の一環として、料理・手芸クラブで「災害時の食」について考え、「炊き出し」を実践した。クラブの活動回数が少ないので、毎回、活動を行った後、少しずつ11月の実習に向けて話し合いを行っていった。

まず、災害時の生活について話し合い、電気、ガス、水が使えない状況で、衛生的に食事を作るための工夫について考えた。

東日本大震災や阪神・淡路大震災の日は非常に寒さが厳しかったことから、一つの器で、しかもからだを温める栄養満点の料理ということで、具だくさんのみそ汁を作ることになった。当日、水道の水は使ったが、自分たちで苦労しながら火を熾し、旬の野菜がたっぷり入ったみそ汁とごはんをおいしく完成させることができた。この体験で、調理の方法はもちろんのこと、災害時には、自分たちも避難している人たちの役に立つことがわかり、共助の心をもつことにもつながったようだ。

これらの取組は一部の児童への関わりなので、今後は、総合的な学習の時間や家庭科など、クラス単位で、できるだけ多くの児童が取り組む場を設定していきたい。

5月28日(月) 災害時の食事を作る。1

災害時の生活、環境を考えてみよう。

・ガスがとまる。  
氷が出ない。  
・電気がとまる。  
・家がつぶれる。  
・火事がおこる。  
・つ波がくる。



## 寄稿

## 委員を経験して



林病院

## 渡邊 麻千子

生涯学習委員として2年間活動し、栄養士会の役割を知ること、活動への関心がより高まり、連携の大切さを知りました。

福田吉治先生の講演打ち合わせでは、委員の仲間と共に、仕事の評価とアドバイスを頂く機会に恵まれました。仲間の相談を聞きながら、皆それぞれが日々悩み、役割について考えており、仕事に対する真摯な思いを感じる事が出来ました。福田先生からのアドバイスは、自信を持って栄養士の仕事をアピールすること、多くの方に対し説得力をもつデータの公開「見える化」を行うことでした。アドバイスを参考に、患者様のデータを介入前後で比較し、栄養指導の効果として担当医と看護師にアピールを続けていきました。すると、病院側が調理スタッフを増員して下さい、病棟での活動の場が広がりました。さらに、

## 生涯学習委員を経験して

まとめた資料を患者様に還元したところ、患者様の食事療法へのやる気に繋がり、各疾患の改善へと繋がっております。ひとつのアピールが、栄養士の存在意義と栄養管理の重要性を患者様及び病院スタッフに知ってもらいきっかけとなり、良い方向へ動き始めました。

生涯学習委員の活動を通じて、お互いに励まし合いながら、共に成長し、共感し、共同する先輩と仲間に恵まれ、自分自身も一回り成長する事ができました。この2年間は私にとってかけがえのない経験になりました。自分自身を成長させるチャンスが役員には数多くあります。どうかみなさま、役員就任のお誘いがあつたらぜひ引き受けて下さい。そして、この委員会の中で、職場では得られない栄養士としての仕事の仕方や他職種との連携、患者様との関わり方などを学び、それをまた、自分の仕事に生かせば栄養士として一回りも二回りも大きくなれると思います。最後になりましたが、関わって下さった皆さまに心から感謝致します。



特別養護老人ホーム かなえ

## 金本 晋二

私が山口県栄養士会の理事となり、早いもので1年余りが経ちました。

それまで旧支部の運営委員を経験したり、総会や研修会で健康づくりセンターを訪れる事はあったものの、栄養士会がどのような仕組みで動いているのか、考えたこともなかった私でしたが会長や各事業部長、事務局の方からたくさんの助言と指導を頂き、今日まで理事として活動することが出来ています。

岩国専門部会の部会長、そして本会事業部の一員としての役割を持つことになり本業との両立で忙しい日々ですが、他の地域の同職種・他職種の理事と共に事業を行い、管理栄養士同士のつながりが出来て嬉しく思っています。

## 理事となつて

昨年は、萩で行われた日本栄養士会の委託事業に関わつて、多数の一般住民を対象とする講演会で司会を行う等、とても貴重な経験をられました。

また、個人としては萩へ足を運んだ経験が少なかつたため、土地の新たな魅力を知ることができました。

現在は、食育SATシステムの取り扱い説明会に向けて準備をしています。

このシステムを多くの来場者が集まる地域の祭り等を使う時にはどうすれば混雑せずに、必要なコミュニケーションを取ることが出来るか。

もしくは少人数にじっくり使う時にはどのようにすれば、より行動変容へと結びつけることができるか。

使用報告書を見ながらまとめていますが、今後共ご意見や助言があれば是非頂きたいです。

## 山口県との交流会について

公益社団法人大分県栄養士会

地域活動職域分野 代表 日名子 祐子

昨年の交流会の際には、山口県地域活動代表の長濱さんを始め会員の皆様には大変お世話になりました。私も地域活動職域分野は、研修と会員の親睦を兼ねて、年1回研修旅行を行っておりますが、平成21年度に始めて、観光と他県の地域活動の状況を知るための交流会をセットにした宿泊研修旅行で長崎にまいりました。丁度「長崎おくんち」の時期でしたので、初日は「おくんち」を見学し、二日目に交流会で、お互いの活動状況や事例を発表した後、昼食をとりながら歓談をし、有意義な時間を過ごすことができました。

今回、山口県へは、会員の「錦帯橋に行ってみよう」との声が発端で、全国リーダー育成研修会時に長濱さんに打診いたしましたところ、後日快諾をいただき実施の運びとなりました。当日は、米軍海兵隊岩国基地の食堂で、食事をいただきながら、基地の米人の栄養士さんも交えて、大阪の地域活動作成の食品ビンゴゲームで盛り上がり、その後シェフの説明を長濱さんの通訳で厨房の見学

をさせていただきました。帰りは、錦帯橋まで山口の会員の方が同行していただきました。ただ、私どもの到着が遅れたのと、岩国基地内に入るのに入国審査並のチェックがあつたため、時間の関係で活動状況の報告が出来なかつたのが残念でしたが、資料をいただきましたので参考にさせていただきたいと思っています。いろいろとお心遣いいただきありがとうございました。今後もお互いの悩みや問題点を情報交換することでよりよい方向へ持っていかれたらと考えておりますので、よろしく願いいたします。





# メタボリックシンドロームを予防しよう



生涯、自分らしくいきいきと生活するため、健康寿命（日常生活を支障なく過ごせる期間、健康と自覚している期間）を延ばすには、「高血圧、高血糖、喫煙、アルコール摂取、運動不足」そして『メタボリックシンドローム』の対策が重要です！

ご自身の健康状態を毎年確認し、健康づくりにつなげていくため、1年に一度は健診を受けましょう。

## メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)とは？

「内臓脂肪の蓄積」に加えて、「脂質異常」「高血圧」「高血糖」のうちいずれか2つ以上をあわせ持った状態のことです。メタボリックシンドロームになると、動脈硬化が進行し、心臓病や脳卒中などの危険性が高くなります。

① 内臓脂肪型肥満	腹囲（おへそまわり）が、男性85cm以上、女性90cm以上
② 脂質異常	中性脂肪 150mg/dl 以上、HDLコレステロール 40mg/dl 未満 のいずれかまたは両方
③ 高血圧	収縮期血圧 130mmHg以上、拡張期血圧 85mmHg以上 のいずれかまたは両方
④ 高血糖	空腹時血糖値 110mg/dl 以上

①腹囲に加えて②～④のうち2つ以上あてはまる場合、**メタボリックシンドローム**です！

①に加えて②～④のうち1つでもあてはまる場合、**メタボリックシンドローム予備軍**で要注意！！

## メタボリックシンドローム対策！生活習慣を見直そう

### ■ 体重・腹囲（おへそまわり）を定期的に計ろう

体格指数（BMI）が25以上を肥満と判定しますが、25未満でも内臓脂肪の多い「隠れ肥満」の人もいます。体重とあわせておへその高さの腹囲を測りましょう。

**BMI（ボディ・マス・インデックス）＝体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)**

**適正体重＝身長(m)×身長(m)×22**

低体重 (やせ)	普通体重 (正常)	肥満
18.5未満	18.5～25未満	25以上

（もっとも疾病になりにくいBMI値は22です）

腹囲1cm減らすには、体重1kg減を目安にし、適正体重を維持しましょう。



### ■ 運動習慣を身につけよう

適度な運動を習慣にしましょう。身体を動かすことを意識することも大切です。歩くことを習慣にするため、「今よりも1日1,000歩増やす」など、目標を立て記録してもよいですね。



### ■ 食生活を改善しよう

食べ過ぎや欠食などの乱れた食生活は、内臓脂肪をためる原因になります。バランスのとれた適切な量の食事を心掛けるとともに、食事をする時間や食べ方などにも注意し、1日3食規則正しく食べましょう。

### ■ 禁煙を実行しよう

内臓脂肪は皮下脂肪と比べて、たまりやすく減りやすいという特徴があります。メタボリックシンドロームのベースとなっている内臓脂肪は、ためる原因となっている食べ過ぎや運動不足などの不健康な生活習慣を改善することで減らせます。

今日から内臓脂肪をためない生活習慣を始めませんか？



野菜は成人1日350g  
(1皿70g相当量×5皿)  
以上を目指しましょう。

〈記 光市 福祉保健部 健康増進課 松尾 咲子〉

総合食品商社

# 株式会社 協 食

Kyoshoku, Inc.

Visit us at "www.kyoushoku.net"



山口合同ガスの涼しい暖房「涼厨」シリーズ

- 🔥 快適 快適だから働きやすい。
- 🔥 経済的 涼しいから空調コストも低減。
- 🔥 安心 熱くないからヤケドの心配なし。
- 🔥 簡単 導入や入替え工事が簡単。



山口合同ガス株式会社

〒751-8508 下関市本町三丁目1番1号 ☎083-223-2115  
<http://www.yamago-gas.co.jp/>



## みんなにやさしい、おいしい。



たんぱく質調整食品・カロリー調整食品 介護食・減塩食 等  
 さまざまな食品を取り扱っております。  
 病院・施設等で使用されている食品をご家庭でも  
 お使い頂けるよう通信販売も行っているため、  
 栄養指導等でもお使い頂けます。



カタログ・資料請求  
お問い合わせは...

山口営業所 : 〒754-0894 山口県山口市佐山747-12 TEL. 083-988-2680  
 ホームページ : <http://isoiti.co.jp>  
 オンラインショップ : <http://isoiti-shop.com>  
 通信販売専用TEL. 0120-723-317

